

# たたかひなけんは殺される

日刊  
**動労千葉**

1988.8.16  
No.2874

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 運転保安無視の丁度許さず ストライキも辞めざるを

津田沼支部を焦点に、動労千葉破壊のために蠢く河野をはじめとする不良職制どもの「アゴヒモ・カーテンチエック」「乗務停止」「乗務員同士にアゴヒモ・カーテンの相互監視」「乗務停止処分者の監禁」などの全く不当な、人権をも無視した強権的労務支配攻撃は、むろん日常業務に悪影響を与え、運転保安を蝕み、乗客・乗務員を危険にさらしている。われわれは、この事実を怒りを込めて明らかにしなくてはならない。まさに、「闘いなくして安全なし」この動労千葉の原点に運転保安確立の闘いの真価を全面的に発揮し、運転でのストライキを辞さず当局に動労革マル・鉄道労連一体となった動労千葉根絶やし攻撃に反撃していこうではないか！

### 無理解を承知で乗務を強制

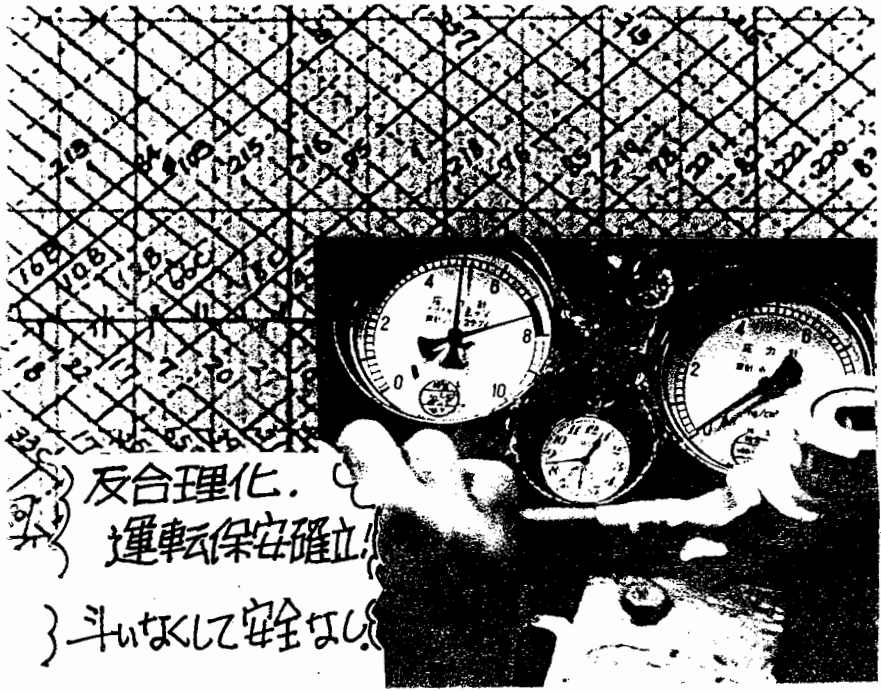
昨年三月、京葉線で雪のかたまりが落下し、前面ガラスが割れ、その破片で一ヶ月の重傷をおった運転士が運転を続けたことを「美談」としてマスコミが報道したが、全く冗談ではない。重傷をおった運転士を交替もさせずに運転させることは労働者や乗客の「人命」を無視する暴挙である。また、ことしになってからも、京浜東北線で血を吐きながら運転していた運転士が乗客の二度にわたる指摘にもかかわらず運転を続けるということがおきているが、千葉においても

- ①幕張電車区の洗浄線であやまって転落し、足の骨を折った運転士に東京一往復の乗務を強制
- ②乗務当日三九度の熱を出でた運転士が病欠を申請したが「診断書をださなければ病欠を認めない」と当直から拒否され、乗務を強制させられる。

河野は労働者の「人命」をどう田心っているのか  
七月二三日に発生した北鹿島駅留線の電車のパンタグラフが上がらなくなってしまった故障に対し、当局は担当運転士に電車の屋根に昇って修理することを命じた。

動労千葉はこの「安全無視」に対して申し入れを发出するとともに、河野車務課長に厳重に抗議すると「プロだから当たり前」との暴言をはいた。そもそも運転士は、屋根の上のパンタグラフの応急措置の訓練など受けたことはなく、ましてやその故障した日は雨が降っており、スニーカーを履くことを処分の対象にして革靴を履くことを強制している現在、感電や転落の危険が十分ありうるのである。

「闘わなければ殺される」こうした状況が、まさにつきつけられている。  
いまこそ、団結を強化し、運転のストライキも辞さず、反撃をかちとろう！



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！